

2020年度 玄海原子力防災訓練（12/11）における課題対応等について

1. はじめに

2020年12月11日に実施した玄海原子力防災訓練時において、振り返り等で抽出された意見を踏まえ、以下の改善事項を抽出した。

抽出された課題に対し、それぞれ区分を設定し、改善に向けた取組みを検討する。

【抽出された内容】

No	抽出された課題 等	区分	改善事項 等
1	初動対応時のERCへの状況報告において、ERCとのTV会議接続後に全体を俯瞰したプラント状況報告が行えていない場面があった。	初動対応	■初動対応時の説明方法や内容の改善
2	15条認定会議時に説明した戦略と、その後の「設備状況・戦略シート」を用いた説明時の優先戦略に相違があった。	戦略報告	■15条認定会議後の説明内容の充実
—	その他主な改善内容	その他	<ul style="list-style-type: none"> ■TV 会議システム音響設備の改善 ■ERC 対応ブース周辺状況の改善 ■ERC への情報共有方法の充実 ■15条認定会議時の進展予測情報報告内容の充実 ■プラント状況を踏まえ優先順位をつけた説明 ■情報共有シート等の説明方法の充実 ■事象進展速度の工夫

抽出された課題等に対する更なる改善事項について、2021年2月18日に予定している川内原子力防災訓練時において改善事項を確認する。なお、今回の対策について、社内訓練までに習熟訓練等を実施し、対応者の対応能力向上を図る。

2. 検討内容

No1：初動対応時の説明方法や内容の改善

(課題)

- ・初動対応時のERCへの状況報告において、ERCとのTV会議接続後に全体を俯瞰したプラント状況報告が行えていない場面があった。

(原因・要因)

- ・ERCとのTV会議接続後にプラント状況説明として、ERSS や書画装置を用いて説明を行うこととしているが、初動報告として整理する情報やCOPを活用した情報説明方法が明確でなかった。

(対策)

- ・初動時に説明するプラント状況について、「ERC対応ブース初動対応チェックシート」及び「対策本部内における発話ポイント」に初動報告として整理する情報やCOPを活用した説明方法を明記する。
→初動報告として整理する情報やCOPを活用した説明方法を明確にすることで、ERCへの円滑な情報提供に寄与できる。

No2：15条認定会議時の説明内容の充実

(課題)

- ・15条認定会議時に当社から説明した戦略と、その後の「設備状況・戦略シート」を用いた説明時の優先戦略に相違があった。

(原因・要因)

- ・15条認定会議時には、現在のプラント状況が好転せず、炉心損傷した場合を見通した戦略を説明していたが、その後の「設備状況・戦略シート」を用いた説明時は、発電所が優先的に行っている現在の戦略の説明を行っていたことから相違が発生していた。

(対策)

- ・現在のプラント状況が好転しなかった場合を見通した戦略説明であるのか、それとも発電所が優先的に行っている現在の戦略説明であるか、ERCに対し、正確に伝わるよう、15条認定会議時とその後の「設備状況・戦略シート」を用いた説明時の発話例を「対策本部内における発話ポイント」に明記する。
→発話例を充実させることにより、ERCへの正確な戦略説明に寄与できる。

区分：「その他」に関する主な改善内容等

No	改善内容 等	対策 等	備 考
①	TV 会議システム音響設備の改善 音響機器の状態により ERC との情報共有に悪影響を与えないよう改善する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 音声のハウリング対策を実施する。 ・ ERC 対応ブースに設置するスピーカの種別を変更実施。(自音声あり⇒なし) ・ スピーカ配置箇所の見直し 	社内振返り
②	ERC 対応ブース周辺状況の改善 本店即応センター内情報共有時の発話を ERC 対応ブースから離れた場所で行ったほうが良い。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本店内の情報共有（ブリーフィング）時に発話する位置の変更を検討する。 	社内振返り NRA 助言
③	ERC への情報共有方法の充実 発話者席に書画カメラを増設したほうが良い。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発話者席に書画カメラを増設し、全ての発話者が自ら書画装置を用いて ERC へ情報共有できるように変更する。 	社内振返り NRA 助言
④	15 条認定会議時の進展予測情報の充実 15 条認定会議時におよその進展予測情報（炉心損傷、原子炉容器破損、格納容器破損）が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 15 条認定会議時におよその進展予測を発話するよう「対策本部内における発話ポイント」に明記する。 	NRA 助言
⑤	プラント状況を踏まえ優先順位をつけた説明 EAL 判断フロー説明時、重要な EAL と付帯的な EAL ではプラント状況を踏まえ優先順位をつけた必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラント状況を踏まえ優先順位をつけた説明をするよう「情報共有シート等を活用したプラント状況・対応戦略の説明方法」に明記する。 	NRA 助言
⑥	情報共有シート等の説明方法の充実 書画装置を用いた EAL 判断フロー等の説明において、説明箇所をペン等を用いて明示していたが、ペン等を頻繁に動かした影響により、視認性が悪くなる場面があった。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 書画装置を用いた説明時の注意事項を「情報共有シート等を活用したプラント状況・対応戦略の説明方法」に明記する。 	社内振返り NRA 助言
⑦	事象進展速度の工夫 対応能力向上を図るため、事象進展が早く、高度な訓練シナリオを作成したが、10 条確認会議等の対応が更に習熟できるよう、事象進展速度を考慮したシナリオに工夫する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訓練において、NRA 等と連携を確認したい場面での事象進展速度を考慮し、更なる実効性のある訓練シナリオを検討する。 	社内振返り NRA 助言

以上